

KKS×-ール

第6号

2013年10月発行

鹿島環境設備(株)

〒211-0041

川崎市中原区下小田中6-9-33

電話044-777-1440 FAX044-788-8117

http://www.kashima-k.co.jp/

発行：鹿島環境設備(株)広報HP委員

建設業界では全国安全週間(7/1～7/7)に合わせ『安全大会』という催しを実施します。大抵はホテルや会館のホールを借りて協力会社の方を集め、代表挨拶・過去一年間の安全実績の報告・優良協力会社の表彰・安全書類の配布・講演会などを行うものです。

全国安全週間とは、中央労働安全防止協会(中労災)が行っているキャンペーンで昭和3年から続いている歴史あるものです。安全大会を行うのは建設業界が多いのですが、やはり労働災害が多いためです。昨年、全国で発生した死亡災害は1,195人。うち365人が建設業です。毎日誰か一人、仕事の中に亡くなられていることになります。毎年、数字に大差なく、労働災害はなかなか無くならないというのが現状です。その為に『未然に防ぐ』このようなキャンペーンが実施されているものだと思います。

弊社も去る7月27日(土)17:00よりJR武蔵中原駅前の『エポック中原』大会議室にて14回目となる【鹿友会安全協力会・鹿島環境設備株式会社 安全大会】を開催致しました。今年も100名近い方々が参加された大きなイベントとなりました。土曜の午後とはいえ多くの参加者は現場でバリバリ働いている職方さんや職長さんで、黙って座っていると後半にはコックリコックリ。眠い目を乱目される為に本年度の講演会には昨年と同ゲストの『舞台女優 秋山エリサさん』をお招きし、異業種での健康管理の在り方やメンタルの整え方など、芸能界という世界を親近感をもって講演いただき、有意義な時間を過ごすことができました。

今年もおかげさまで弊社ならびに協力会社の方々も無事故無災害で過ごすことができています。本大会を機に今一度過去の教訓から少しでも人的災害を防ぐ手立てを考え『自分の身は自分で守る』『怪我をしない・させない』という意識をより一層全員に強く持って頂きたいとの願いを強くしました。本大会で司会進行を務めさせて頂いた小西からのレポートでした。《小西》



社員表彰



秋山エリサさん講演

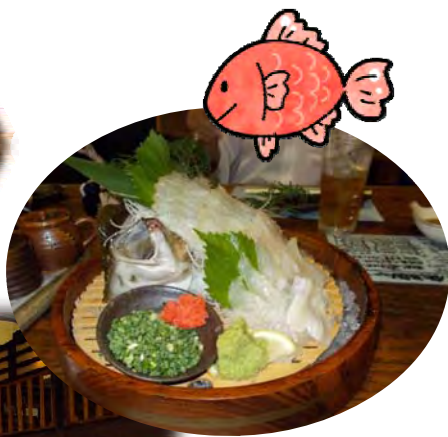


懇親会

安全大会を開催



釣り大会！・・・ではなくて歓迎会(^ ^)



9月に当社に新入社員が2名加わり、歓迎会と暑気払いを兼ね『ざうお網島店』さんで行いました。少しおっとりした五十嶺さん、行動力満点の奈良岡さんと対照的なお二人ですが、当社のたくましい戦力になると確信しております。皆様のお宅にお伺いすることもあるかと思ひます。その際にはどうぞ宜しくお願いします。さて、『ざうお』さんは、TV等で紹介されたこともあり、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、釣堀式になっていて、座敷の周りを魚が回遊しております。社員9名が釣りに挑戦し、鯛・シマアジ・ヒラメなどを釣りあげました。その度に歓声が上がり、久しぶりに皆の童心に戻ったような笑顔を見ることができました。釣った魚はどうなったでしょう？？？もちろん！！すぐに『刺身』『酒蒸し』『塩焼き』と美味しく調理され残さず皆の胃袋へ・・・！楽しい時間はあっという間に過ぎて、胃袋も心も大満足で社員一同送迎バスに揺られて帰路につきました。

『ざうお』さん。とても楽しくお料理も美味しかったですよ。機会がございましたら、是非ご家族とお友達とお出掛けしてみてください。《鈴木》

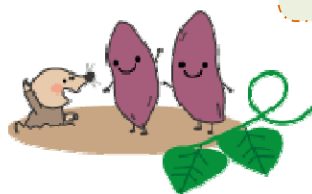


良い環境作りに努める目標を持って
頑張りますので宜しくお願い致します。



KKSメンバーが 増えました

営業技術課
五十嶺 和彦



工事課
奈良岡 淳



9月に入社致しました奈良岡と申します。
今まで建築の施工管理を行って来ましたが、
ここからは、設備の専門知識を身につけて
様々な物件に対応していきたいと思います。



ミツバチの話

Part2



皆さんこんにちは。今回の『ミツバチ』のお話は『女王蜂』のお話です。さっそくですが『女王蜂』の最大の仕事は何でしょうか？・・・それは！！繁殖です。メスの中で唯一卵を産めるのは女王蜂だけなんです。ですから、巣の中にいるハチ全てが女王蜂の子であるわけです。多くの卵を産み命をつなげていくんですね。では、どうやって女王蜂は決まるのでしょうか？それは卵を産みつけられた部屋と与えられたエサの違いなんです。それ以外は皆同じ卵であり幼虫なんです。ハチの巣を見ると六角形の様な穴がありますよね。そこに産みつけられた卵は成虫になると働きバチまたはオスのハチになります。エサも蜜や花粉を与えられます。一方【王台】と呼ばれるスイートルームへ産みつけられた卵のみが女王蜂にエントリーされます。このスイートルームは数室から十数室あり、その数だけ女王蜂への候補ハチがいるわけです。エサも特別で『ローヤルゼリー』のみを与えられて育ちます。健康食品として飲まれている方も多いのではないのでしょうか？あの『ローヤルゼリー』です。飲み続けている方は、女王蜂になれるかも・・・！？さて、本題に戻しましょう。複数いる女王蜂候補からどうやって一匹の女王蜂を決めるのか？それは・・・『ミスコン』です。やはりハチと言っても容姿の美しいハチの方が・・・って違いました。本当は死闘が待っているのです。候補のハチ全てと一緒に成虫になる訳ではありません。最初に成虫になった候補ハチがほかの候補ハチを全て殺してしまうのです。そして【王台】を破壊します。こうやって生き残った1匹が女王蜂となるのです。ごくまれに複数のハチが同時に成虫になった場合は、取っ組み合いのケンカをします。どちらかが死に至るまで続き、決着が付くと見ていた働きバチは会議をします。「生き残った女王蜂は瀕死の状態ではないか？」「今後長生きして多くの子孫を残せるのか？」などを見極めます。そして「これはマズイ！」と判断した場合には、まだ成虫になっていない女王蜂候補を1匹保険として守ります。やがて新女王蜂に問題ないと判断すると保険として守っていた女王蜂候補を守らなくなり、結果、その候補は新女王蜂に殺されてしまうのです。

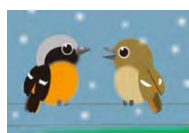
このように、卵として産みつけられた部屋の違いから始まり、VIP待遇で育てられながらも最後は死闘の末に、たった1匹のみ【女王蜂】となるのです。又、新女王蜂が決まる前には、旧女王蜂は半数の働きバチを連れて別の巣を作る為に既存の巣を出て行きます。これを『分蜂』と言います。そして同じことが何回も繰り返されミツバチたちは生きていくのです。

さてさて、今回はこの辺で・・・次回は【蜂蜜が甘いわけ】をお話します。お楽しみに！《古谷》



《袖振り合うも多生の縁》

知らない人とたまたま道で袖がふれあう程度のことも、前世からの深い因縁によるものであること。人と人の関係は単なる偶然によって生ずるわけではなく、すべて深い因縁によって起こるのだから、どんな出会いも大切にしないといけないという仏教的な考え方。「多生」何度も生まれ変わる意味。「他生」とも書くが、この場合は、この世以外の意味で、前世と来世。



袖振り合うも多生の縁

今回、KKSメールの記事を書くことになり、自分が昔知人に言われて思った事などを書こうと思います。自分が中学生のころ、同級生に「会わせたい人がいる」と言われ会うことになったのですが、急きょ都合が悪くなり延期になりました。次の約束をした日も結局会えず、そんなこんなでお互いの都合が付くまでになんと3年半かかりました。初めて会った時に言われた言葉が「やっと会えましたね。今までごめんなさい。都合が付かなくて。でも良かった。縁がなかったら会えなかったからね。縁がないとどんなに会いたくても会えないんだよ。」と。その後も色々なお話しや体験で学ばせて頂き、その出会いはすごく貴重な出会いとなりました。今思えば、同級生との縁はこの出会いを導いてくれる縁だったのかなと思います。又、縁がないと会えないなら出会えた人とはどんな縁があったのかなと考えます。頼りになる先輩やすごく迷惑な人など、良くも悪くもどちらも縁があって出会い、どんな意味があって出会ったのだらうと。これから出会う人達とはどんな縁があるのか考えると楽しくなりますね。

KKSメールを読んでくださっている皆様に良いご縁がありますように。《井上》



編集後記

▼報道では少し落ち着いてきましたが、2020年東京オリンピックの開催が決定しました。前回の1964年以来56年ぶりの夏季オリンピック開催になります。プレゼンテーションの手法も話題になりました。年末の流行語大賞発表の際には【お・も・て・な・し】が間違いなく年間ベスト10に入ることでしょう。▼前回の東京オリンピック開催時には私は生まれておりませんが、高速道路の整備や東海道新幹線の開通などのインフラ整備、一般家庭にとってはTVが普及する大きなきっかけになったと聞いています。高度成長期当時の日本と現在の日本とを比べると、これほどの変化が見られないまでも、企業や個人が前向きに進んでいけるきっかけになるのではないのでしょうか。▼この数年で、個人的に大きく変わったと感じられるものの一つに、SNSの多様性、コミュニケーションツールの変化があります。メール、Twitter、Facebook、LINEなど、個人的な連絡手段はもとより、個人から社会、また世界に発信できるツールがこれほどまでに普及するとは想像だにしていませんでした。あと7年もすれば、また新たなツールも出てくるでしょう。私は使いこなせる自信はありませんが・・・▼本誌が順調に発行していくと7年後には第20号になる予定です。地味で時代遅れな感じはありますが、これも一つのコミュニケーションツールになりますでしょうか。ゆっくりですが丁寧に、記事にもありましたが一人一人の【ご縁】を大切に作っていかれたらと思います。《黒瀧》